

ことばの教室

1. 研究主題 ことばの教室における表現力・コミュニケーション力を高める支援のあり方

2. はじめに

ことばの教室へ通級している児童は、①発音が正しくできない②ことばがはっきりしない③どもる④ことばの発達が遅れているなど、それぞれが言語に関する様々な課題をもっている。課題の改善を図るには、一人一人の児童の実態や課題の背景を的確に把握し、一人一人に応じた指導目標を設定し、指導方法を工夫していくことが必要である。

そこで、ことばの教室では、日々の授業を通して表現力・コミュニケーション力を高める方法を探っていくことにした。

3. 育てたい力

◆ 表現力

- 自分の思いや考えを、進んで表現しようとする力
- 自分の思いや考えを、相手に伝わるように表現する力

◆ コミュニケーション力

- 自分の思いや考えを、進んで相手に伝えようとする力
- 相手の思いや考えを、正しく受け止める力
- 周りの人とのやり取りが、スムーズにできる力

4. 研究の視点と手だて

〔視点1〕 児童が主体的に活動できるような活動の工夫

- 児童の実態に応じて自分の課題(めあて)を把握させ、その課題解決に向けてどんな活動が必要かを考えさせる。
- 児童が考えた活動も含めたいろいろな活動を提示し、その中から課題解決のために自分を取り組みたい活動を選択させる。

〔視点2〕 話す・聞く・読む活動、リラクゼーションの工夫

- 安心して話のやり取りができるよう、リラックスした雰囲気作りをする。
- 話すこと・聞くこと・読むことが楽しいと感じる活動を体験させ、意欲付けにつなげる。

〔視点3〕 個々の課題に応じた練習方法の工夫

- 正しく話したり聞いたり読んだりするために、個々の児童が必要とする言語学習を行う。
- 児童の実態に応じて、計画的に学習を進めていく。

〔視点4〕 日常的な活動の工夫

- 保護者や担任と連携しながら、よりよいコミュニケーションができる環境を整備する。

ことばの教室 成果と課題

ことばの教室では、日々の授業を通して表現力・コミュニケーション力を高める指導方法のあり方について探ってきた。その結果、下記のような成果と課題が明らかになった。

◎ 成 果

〔視点1〕児童が主体的に取り組めるような活動の工夫

- 遊びを取り入れた様々な学習内容を提示し、一定期間取り組んだことによって、自分でも学習課題を選択できるようになった。
- 慣れてきたら、この学習は何のための学習かを振り返らせる場を持ち、徐々に自分の課題を分からせるようにしたことで意欲が高まっている。

〔視点2〕話す・聞く・読む活動、リラクゼーションの工夫

- 個人個人に応じた教室経営をすることで、リラクゼーションが図ることができた。
- 遊びの中に学習を少しずつ取り入れていくことで、自然に学習が成立する状況ができ、この学習が楽しいと考えられるようになってきた。

〔視点3〕個々の課題に応じた学習の工夫

- 自分の問題や障害が改善している実感を持たせる学習プログラム作りができた。（ステップアップしたら、また前に戻ってやるなど螺旋状に進めていく。）

〔視点4〕日常的な活動の工夫

- 保護者や担任と、こまめに連絡を取ることが、子どもにとってのよりよい環境整備につながった。

◎ 課 題

- ▲ 指導の開始時期や指導期間の長短によって意欲が高まってくる時期が異なるため、それぞれの児童に対する実態把握や課題提示の仕方に差が出てくる。しかし、この実態把握や課題提示を急がず丁寧に行うことによって児童の主体性が出てくると思われるので、背景にあるものの探り方にさらに工夫を凝らしていきたい。
- ▲ 言語障害克服のために、座学のみならず、自分の身体の状態を把握し自ら体をコントロールしていけるような動きのある学習内容を数多く工夫していければ、「楽しく意欲を高められる」と思われる。
- ▲ 一対一の特別な環境でのやり取りを般化していく指導のあり方について、さらに探っていきたい。

今後、これらの課題を解決していくことで、児童の表現力やコミュニケーション力をいっそう高めることができると考える。